

2014（平成26）年高連協・新年集会

日時：2014（平成26）年1月27日（月）13：30～16：40

場所：内幸町プレスセンター9F 日本記者クラブ宴会場

・年頭挨拶 樋口恵子 共同代表

みなさま、あけましておめでとうございます。

きょうはそういう当番のようですから、僭越でございますが、最初にご挨拶をさせていただきます。

急に生ぐさい新年になってしまいまして、東京都民とくにわれわれ高齢者にとっては、東京はほんとうに住みにくい街になってしまっている。わたしたちがこれからの「人生100年の舞台」としての東京をどうつくりあげるか。選ぶ方はさまざまでありましょうけれど、「人生100年」の入り口と出口がしっかりと固められているような、そんな人を都知事に選びたいと思っております。

さてわが高連協ですが、わたしは去年何を申し上げたのか、なんたって物忘れに認知症がだんだん加わってきますと、覚えているほうが不思議で、日々の行動がつつがなくいっているのは、記憶ではなくて推理です。そこにあるはずだ、こうしたはずだ。そう推理をしますと、去年2013年の年頭ということから考えますと、2012年はけっこういい動きがあった。わたしたちはそれに乗って風をつかみ帆をはらみ、しっかりやっていたころ！という意味のことをいったと思うのです。

なぜか。2012年にはふたつの大きな政策といきましょうか、政府の政策変更がございました。高齢者の場合は11年ぶりに「高齢社会対策大綱」の改定でございます。もうひとつは女性のほう。ですからわたしは「高齢者の変」と「女性の変」と呼んでいるのですけれど、ある意味では政策変更というか土台が変わったといっているのです。女性のほうは、オリンピック前で、まだ前政権でしたけれども、「働くなでしこ大作戦」というのです。女性の活躍推進といって工程表もつくるといっていて、政権が変わったし、まだつくっていないけれど、これからもっと進むでしょう。

「高齢社会対策大綱」のほうは、われわれおなじみの清家篤先生が会長であったこともありまして、65歳以上の方が「支えられる側から支える側」へ、希望する人はだれでもがいくつになっても働ける社会へ、というのが「高齢社会対策大綱」のひとつの柱でございまして、おおいにわたしは力を得たわけでございます。

ですから12年の暮れは、わたしはとっても嬉しかった。女でしょ、年寄りでしょ。両方にがんばれ！というのですから、こんなに良いことはないじゃありませんか。と思っていたのですけれど、それから1年経ちました。

どうであろうか、といえますと、女性のほうはそれなりに進んだと思います。こんなことには反対だと思っていたあの安倍さんまで、口を開けば「女性が活躍する、女性が

輝く社会を」という。わたしなどは、「ほんとう？」と聞き返したくなりますけれど、こう繰り返しいわれますと少しはほんとなのかと思います。それから企業の側をみておりますと、たしかに女性の登用とか活躍がたいへん大きく進んでいます。都知事にはだれか男の人がなると思うけれど、かならず副知事にはだれか女性が登用されるだろうと思っています。その程度には世の中変わってきています。

ところが肝心の高齢者のほうは、1年経ってもなんにも動かなかった。たしかにもうちょっと若い年齢層での「高齢者雇用安定法」が変わりまして、65歳までは雇用が義務づけられるとか、その程度の動きはありましたけれども、高齢者が主体となって行動を起こすとか、高齢者の知恵を借りようとか、いっしょに社会に貢献すべくシステムをつくっていこう、という提案は、わたしの知るかぎり、女性のほうがいろいろあったのに比べてなかった。

で、わたしはなぜないのだろう、と考えてみましたら、理由がひとつわかりました。女性活躍モデルは国際的な前例やモデルがいやというほどあるのです。しかも「成功体験」としてある。安倍さんが、ああ言い出したのは、日本の男女性別役割分業、女性と男性の役割分担をはっきりしてここまできていることが、国際的に、ダボス会議であろうとどこであろうと、「失敗体験」として世界に公認されているからです。欧米などのモデルがあるからできるのです。ところが残念ながら、高齢者がほんとうに活躍している社会は世界に少ない。モデルがないのです。むしろ日本の高齢者の労働力率が高いくらいです。日本には勤労の精神がある。この先は文化の問題だから批判はできないのですけれど、「レイバー」ということに対する考え方ですね。「ハッピー・リタイアメント」ということばがあるくらい。むしろ早くしごとを終わって、それから経済を保障されて、いろんな生き方をするほうがよいという考え方が、つい最近の先進国には支配的だったと思いますし、その先進国が変わっていく気配は見ております。

スウェーデンではすでに75歳まで働ける社会を国家モデルとして提案しはじめております。ですから変わっていくでしょうけれど、先進国も一部が変わりはじめたばかりなんですね。モデルがあって何かするのがうまいのが、日本です。だからおもしろいじゃありませんか。

2014年、これからみんなで始めようではありませんか。自慢じゃないが、世界一の金メダル確実の長寿国であります。高齢化比率も高い国であります。モデルがなかったらわれわれがなるよりしようがない。世界中の高齢者が活躍する、高齢者が働く、そのロールモデルにわたしたち自身になっていくよりほかはない。

だから「2014年はがんばろう、われわれ自身がロールモデルになろう！」、政府がしてくれるのを待つのではなくて、わたしたちがどんどん提案して実践しよう。これがわたしの提案でございます。

ありがとうございました。